日本周産期精神保健研究会
ニュースレター

編集／発行
日本周産期精神保健研究会
事務局

2022.3月

目　次

1）巻頭言
2）第４回日本周産期精神保健研究会開催報告
3）総会報告
4）第１回　理事会議事録
5）第２回　理事会議事録
6）第６回近畿周産期精神保健研究会
7）第10・11回高知周産期こころの研究会
8）開催記録・事務局からのお知らせ

巻頭言

日本周産期精神保健研究会副理事長　橋本洋子（臨床心理士・公認心理師）

日本周産期精神保健研究会の設立から12年余の年月が流れました。この間、周産期医療の場には、医学的アプローチだけでなく、こころや関係性へのケア・サポート、言い換えれば精神保健のアプローチが欠かせないという同意が浸透してきました。

精神保健のアプローチには「多職種連携」が欠かせませんが、このこともほとんど常識になってきたように思います。周産期医療の場には、産科医、新生児科医、看護師、助産師の他に、心理士、ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床工学士、保育士など多くの職種が加わることが普通になってきました。さらに、他科の医師や保健師、地域との連携も進んでいます。多職種が関わる時に、それぞれバラバラに関わるのでは赤ちゃんと家族の側に混乱を生じますから、赤ちゃんと家族を中心とした多職種連携が必要とされているのです。

多職種連携のキーワードは「情報共有」であると考えられています。確かに、情報共有は必須です。でも、文章で切り取ったような情報の伝達だけでは、個別性が高く個々人の中でも揺れ続けている「こころ」に対応するのは難しいかもしれません。それぞれの専門性を持つ多職種のスタッフが、直接のコミュニケーションによって互いの視点を重ね合わせていくことで、包括的なケア・サポートが可能になるのではないかと、私は考えます。一組の赤ちゃんと家族を中心として、サッカーのチームのように、臨機応変に動ける「多職種協働」ができたら素敵だなと思います。

では、そんなチームを作るためには、どうしたらいいのでしょうか。第6回近畿周産期精神保健研究会で、大阪大学の精神科医の金井講治先生は「プロセスの共有」が大切と述べられました。プロセスの共有に近いニュアンスだと思うのですが、私たち心理士は「事例の共有」という言葉をよく使います。事例を共有し、事例を真ん中にして共に悩み考え協働することで、信頼し合えるチームができていくのではないかと思います。毎回チーム作りから始めるのはしんどいと思われるかもしれませんが、ひとつの事例について協働できた経験は、必ず次につながります。いくつかの事例で協働できたなら、そこには確かな信頼関係が生まれています。情報共有による連携を超えて、信頼関係に裏付けられた協働を目指したいものと考えます。

当研究会では、コロナ禍による中止はありましたが、ほぼ毎年「地方セミナー」が開かれ、4回の全国大会が開催されてきました。「近畿周産期精神保健研究会」や「ぎふ周産期こころの研究会」「高知周産期こころの研究会」など各地の仲間たちへの広がりもあります。それぞれの研究会の企画実行にあたっては、その地域の多職種協働が行われ、チームができました。これからの当研究会の課題は、各地域ならではの活動を全国組織が支え、同時に地域の活動から全国の仲間たちが刺激を受ける、そんな組織になっていくことかもしれません。

第4回日本周産期精神保健研究会開催報告

テーマ：子（個）をはぐくむ多様な家族への支援
会　長：山中美智子（聖路加国際病院
　遺伝診療センター センター長／女性総合診療部 医長）
準備委員会委員長：齋藤圭介
　　（聖路加国際病院　女性総合診療部　副医長）
会　期：2021年10月30日（土）
会　場：ハイブリッド開催＆聖路加国際大学

第4回の本研究会は当初，2020年10月31日～11月1日の開催を予定しておりましたが，COVID-19の感染拡大に伴い，1年延期の上，シンポジウム，パネルディスカッションは2021年10月30日のライブ配信のみ，特別講演・教育講演・一般演題は10月30日～11月18日のオンデマンド配信とするwebのみでの開催という初めての形式での研究会となりました。本来は発表者だけでも集って，お互いに同じ空気を共有しながら討論を重ねる形を目指していたのですが，COVID-19の感染状況のためにそれも叶わず，演者が聖路加国際病院の職員のみであったパネルディスカッション以外はすべてwebでの講演・討論となりました。

今回のテーマは「子（個）をはぐくむ多様な家族への支援」として，「COVID-19が母子の精神的な状況に与えた影響」「低出生体重児:　地域につなげる-家族を支えるケア-」「先天異常と向き合う-共に生きる家族を支えるケア」をシンポジウムで取り上げ，自身ががんを抱える母親について「チームで支えるがん患者の妊娠-妊娠前から子育てまで-」というパネルディスカッションで取り上げました。特別講演は「社会的養護と社会的養育：里親・養子縁組・ファミリーホームと共同養育」，教育講演は「タンザニアの母子から学んでいること：若手研究者とともに」と，様々な家族形態の在り方やアフリカでの母子の様子など，多くの示唆に富む内容についてご教示していただきました。一般演題も9題の発表があり，質問も寄せられました。

それぞれのセッションではオンラインを通した討論ができましたが，それでも「隔靴掻痒」の観が否めない部分もありました。最終的には258名の参加登録もいただきましたが，今後は，リアルに集うこととオンラインで繋がることの双方の長所を生かした研究会開催に結び付けられたら…と思う会でした。

このような初めての形式での開催に，院内外から多くの方のご支援をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

第4回日本周産期精神保健研究会大会長
国際病院遺伝診療センター/女性総合診療部
山中　美智子

総会報告

令和3年度日本周産期精神保健研究会総会は、第4回日本周産期精神保健研究会開催日にオンラインで開催いたしました。

1．令和2（2020）年度活動報告

・COVID-19感染拡大に伴い、活動中止となったためオンラインにて書面会議を開催した。
・第4回日本周産期精神保健研究会；令和2年10月31日 - 11月１日に開催予定であったが、COVID-19 感染拡大に伴い2021年10月へ開催延期となった。
・健やか親子21連携；健やか親子21に入会し、会員へ情報提供を定期的に実施している。
・関連事業；日本子ども虐待防止学会第26回学術集会いしかわ金沢大会（令和2年11月28日～29日開催：会頭沼田直子理事）の後援、盛会となった。
・ニュースレター発行

2．令和3（2021）年度活動予定

・第4回日本周産期精神保健研究会開催中
山中先生より、234名（内会員71名）の参加、午前中の部は順調に進行した旨報告があった。
・令和3年（2021）度日本周産期精神保健研究会総会は、研究会中にオンライン開催で実施。

3．地方部会について

・令和4年1月23日（日）9時から12時の案内があった。
世話人；高知医療センター　永井立平先生
テーマ；「生命（いのち）について考える会」
講　師；室月淳先生（宮城県立こども病院産科）
開催方式；ハイブリット形式またはWeb開催予定
日本周産期精神保健研究会協賛予定、詳細が決まり次第連絡がある。

4．関連事業

・第6回周産期精神保健研究会；令和4年2月26日、27日に開催予定
会長；遠藤誠之先生　（大阪大学大学院医学系研究科）
開催方式；web開催
テーマ；「改めて多職種で考えよう　母と子と家族の心に届く支援」
上記について、遠藤先生よりご案内があった。

5．その他

・周産期こころのケア研修班
第6回近畿周産期精神保健研究会プレコングレス
「周産期のこころのケア～赤ちゃんとの出会いと別れ～」
令和4年2月26日（土）10：00～12：00　WEB開催
テーマ；周産期のこころのケア
～赤ちゃんとの出会いと別れ～
10:00～11:00　基調講演「周産期のこころのケア」
講師：　加古川中央市民病院　　岡田由美子先生
11:00～12:00　座談会「赤ちゃんとの出会いと別れ」
パネリスト：山王研究所　橋本洋子先生
大阪大学大学院　管生聖子先生
加古川中央市民病院　岡田由美子先生
上記について、岡田先生より案内があった

6．今後について

・地方セミナー順次開催予定
・次回大会（2年に1度）決定次第報告する予定
・その他
周産期こころのケア研究会は毎年開催予定

7．令和2年度会計報告　　（資料1）

・令和2年度日本周産期精神保健研究会会計報告（2020年4月1日～2021年3月31日）資料1に基づき、永田事務局長より報告があった。
支出については昨年度研究会中止のため繰越金が例年に比して増加している旨報告された。
・久保実先生より、COVID-19感染予防のため、対面による監査は実施せず、郵送にて会計監査を9月14日に終了した旨報告された。
・参加者より、異論、質問なく承認された。

令和2年度日本周産期精神保健研究会会計報告　　資料1

（2020年4月1日～2021年3月31日　単位；円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	937,447	事務局手当	156,000
会費	350,000	通信費	19,104
		事務消耗品費	18,976
		HP更新料	11,580
		次年度繰越金	1,081,787
計	1,287,447	計	1,287,447

上記のとおりであることを認めます。

2021年9月14日

監事　久保　実　船戸正久

8．令和4年度予算　　（資料2）

・永田事務局長より、地方セミナー経費の支出項目が理事会で創設されることが承認された旨報告があった。
・参加者からは、異論、質問なく承認された。

令和4年度日本周産期精神保健研究会予算(案)　　資料2

（2022年4月1日～2023年3月31日　単位；円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,170,000	事務局手当	156,000
会費	350,000	通信費	30,000
		事務消耗品費	30,000
		HP更新料	11,580
		会議費	65,000
		地方セミナー経費	30,000
		周産期心のケア研修支援	30,000
		次年度繰越金	1,167,420
計	1,520,000	計	1,520,000

9．その他

・会員数217名
・有光威志先生（慶応義塾大学小児科医師）が、新理事として承認された旨報告があり、有光先生からご挨拶があった。

・事務局より引き続き情報提供など継続していく。ご意見あればご連絡をいただきたいこと、お願いがあった。
・その他、参加者より異論、質問はなかった。

令和3年度第1回理事会　議事録

日　時：令和3年7月11日（日）15：00～16：00
開催方法：Zoom meeting
出席19名、委任状提出10名により理事会は成立とし、会議の進行をおこなった。

＜報告事項＞

1．令和２年度活動報告

1）令和2年度日本周産期精神保健研究会総会

永田事務局長より、昨年度予定であった第4回日本周産期精神保健研究会総会は、COVID-19感染拡大に伴い中止となった経緯が説明され、書面審議により開催されたことが報告された。

今後、書面審議の方法について、検討していくことが確認された。

2）健やか親子２１との連携について

昨年度より健やか親子21に入会しており、参加連携を行っており、令和2年度は会員へ情報配信を1回行ったことが報告された。

3）関連事業について

後援をおこなった日本子ども虐待防止学会第26回学術集会いしかわ金沢大会について、大会長の沼田直子理事より開催報告が行われた。大会テーマは，「心をとりもどす～心を見つめるネットワーク形成へ」であり、令和2年11月28日～29日に、ハイブリッド型方式で行われ、参加者2200名であったこと、多数の参加者により開催方法の変更を余儀なくされたが、盛会に終了したことが報告された。

＜審議事項＞

1．今年度の活動予定について

1）第4回日本周産期精神保健研究会　（1年延期）

日時：令和3年10月30日（土）
会場：聖路加国際大学
開催方式：ライブ配信・オンデマンド開催
会長：山中美智子（聖路加国際病院遺伝診療センター
センター長/女性総合診療部　医長）
テーマ：「子（個）をはぐくむ多様な家族への支援」

青木氏により、開催プログラム／タイムスケジュールについて、資料に基づき説明がなされた。窪田理事より、一般演題9題をどのように予定していくのか確認があり、青木氏より、一般講演について全例示説として、講演プログラムとは別に開催する方法を検討している旨が報告された。

側島理事長より、全例示説とした場合、発表者と参加者の意見交換は可能なのか質問があり、方法は山中会長に一任するが、多くの参加が望まれる方法を検討してほしい旨の意見がだされた。青木氏より、本日の意見を踏まえて、開催方法を見直し適時報告予定である旨が確認された。

2）日本周産期精神保健研究会総会・第2回理事会

総会は、第4回研究会中の昼食時間帯に開催することで合意を得た。

理事会は、例年会期中に開催しているが、第4回研究会中の開催は時間的に困難であるため、1週間前を目途に事務局で日程調整を行い、開催周知を行う旨が確認された。

3）健やか親子21

永田事務局長より、今年度2回会員へ情報配信したこと、健やか親子21推進協議会HPへ当研究会の情報を掲載した旨が報告された。

4）関連事業

第6回近畿周産期精神保健研究会開催について
日時：2022年2月26日（土）9:30～16:30
2月27日（日）9:30～16:30
会長：遠藤誠之（大阪大学大学院医学系研究科
保健学専攻　教授）
方法：WEB開催（ライブ配信）

窪田理事より、第6回近畿周産期精神保健研究会開催予定が発表された。内容については、昨年度準備を整えた第5回研究会がCOVID-19感染拡大に伴い延期となったため、その内容を踏襲して開催予定であることが報告された。

窪田理事より、併せて、昨年度後援および補助金を承認された周産期こころのケア研修会は、今年度はプレコングレスとして、近畿周産期精神保健研究会の中で開催するとしたことが報告され、今年度についても後援を行うことが承認された。補助金については、昨年度に計上された予算を、今年度執行することが承認された。

5）その他

日本NICU家族会機構　(Japanese Organization for NICU Families、略称：JOIN)についての、会員への発信について審議がなされた。

橋本理事より、会員個人の意思による参加の自由であるが、当該機構には本研究会活動に関連ある団体が所属していることから、今後日本周産期精神保健研究会として連携していければと考えていることが補足説明された。

齋藤理事より、HP上のJOINの活動内容を閲覧し、家族会機構の活動をまずは理解してもらいたい旨、併せて説明があった。

2．今後の活動について

関連研究会として、高知周産期こころの研究会について永井理事より今後の開催予定については未定であると報告され、準備が整い次第、連絡をいただくこととなった。

永田事務局長より、健やか親子21からの情報提供を引き続きおこなっていくが、コロナ禍において多くの学会・研究会がオンライン開催となり、会員に対して、理事や事務局から有益な情報を提供できないかと相談があった。側島理事長より、今後の活動については、地方セミナーを含め

て、計画していくことが確認された。

永田事務局長より、第 12 回地方セミナー in 名古屋（世話人：山田恭聖理事）に準備をいただいているが、昨年度は、COVID-19感染拡大に伴い開催中止となっている。地方セミナーは、病院において開催されてきた経緯があることから、感染対策を含めた安全な地方セミナー開催方法について、理事より意見をもらいたいと提案があった。

3．その他

1）会員番号の発行について

永田事務局長より、当研究会では、事務局限定で、整理番号を付与してきた経緯があるが、会員に対して会員番号を発行していない。今後に向けて、会員番号を発行していきたい旨、提案があった。審議の結果、会員番号を発行することは承認された。今後、発番方法を事務局で検討し、再度理事会に提案していくことが確認された。

2）現会員数　211名

新規入会希望8名について審議をおこなった。入会希望者の内1名の入会について、窪田理事、橋本理事より、会則にある会員資格（専門職）として適切かどうか、不明な点があると意見が出された。

窪田理事より、現行の会則にのっとると、当該者の新規入会を承認することは難しいため、賛助会員としての立場を検討できるのではないかという意見がだされた。

事務局長から、当該協会（代表者）の周産期医療との関りについて聴取し、その内容によって入会承認を検討することで承認を得た。

山中理事より、今後に向けて、健全な研究会活動を継続していくためにも、新規入会希望者に対して、推薦人制度について検討していくことも必要ではないかとの意見がだされた。

永田事務局長より、今後に向けて、会則第３章（会員）第５条「本会は、周産期医療領域および関連領域で活動をおこなう医師・看護師・助産師・保健師・臨床心理士・ソーシャルワーカー・理学療法士・保育士など周産期医療に関わる多職種をもって構成する」にある「など」について、専門職の範囲が明確になるように記載内容を検討し、理事会に提案することが確認された。

令和3年度第2回理事会　議事録

日　時：令和3年10月29日（金）16：00～17：00
開催方法：Zoom meeting
出席19名、委任状提出12名により理事会は成立とし、会議の進行をおこなった。

＜審議事項＞

1．役員について

板橋家頭夫理事より、今年度をもって退任したい旨報告され、承認をされた。

2．今年度の活動

1）第4回日本周産期精神保健研究会の準備状況について、会長の山中美智子（聖路加国際病院遺伝診療センター　センター長／女性総合診療部 医長）理事より報告が行われた。テーマ：「子（個）をはぐくむ多様な家族への支援」としてオンラインで開催されること、当初参加者申し込みが伸び悩んでいたが、参加申し込みが200名を超えてきたことが報告された。

2）令和3年度日本周産期精神保健研究会総会

第4回日本周産期精神保健研究会会期中の令和3年10月30日（土）12時45分～13時にオンラインにて開催することが事務局長より報告が行われた。

3）地方部会

高知医療センター永井立平理事より、令和4年1月23日（日）に高知周産期こころの研究会の主催で開催が予定されている「命（いのち）について考える会」（仮）を研究会の地方部会として開催したい旨提案され、承認をされた。研究会としてバックアップしいくことが確認された。

4）関連事業

第6回近畿周産期精神保健研究会が、令和4年2月26日（土）―27日（日）に「改めて多職種で考えよう　母と子と家族の心に届く支援」をテーマとしてWeb開催をされることが報告された。

5）その他

昨年度後援および補助金の支出が承認された周産期こころのケア研修が、第6回近畿周産期精神保健研究会プレコングレスの位置づけで、令和4年2月26日（土）に開催する予定となったことが報告された。昨年度は感染拡大の関係で中止となっており、本年度も後援を行うこと、昨年度の繰り越しの形で補助金をお支払いすることについて確認が行われ、承認された。

3．今後の活動について

昨年度中止となった第12回地方セミナーは、愛知医科大学での開催を予定していたが、現在の感染状況では開催のめどがたたずいったん正式に中止とすることが承認された。

今後の地方セミナーや大会の開催については、感染状況を踏まえながら検討をしていくこととなった。

4．令和2年度会計報告（資料1）

資料にもとづき事務局長より報告が行われ、承認された。

5．令和4年度予算案について（資料2）

資料にもとづき事務局長より報告が行われ、承認された。

6．その他

1）会員番号の発行について

これまで事務局の管理番号のみ発行していたが、今後は会員番号を発行することについて確認が行われた。

2）入会者の承認

今年度新規入会者8名の承認が行われた。

3）その他

令和3年新入会者16名、現会員数　212名であることが事務局長より報告をされた。

第6回近畿周産期精神保健研究会開催のご報告

―印象記風に―

第6回近畿周産期精神保健研究会が、大会会長遠藤誠之先生（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻教授）のもとに、2022年2月26日（土）・27日（日）の2日間、Web形式で開催されました。テーマは、「親子の物語が始まるとき 私たちにできることは？　―改めて多職種で考えよう 母と子と家族の心に届く支援―」で、参加者は188名（スタッフを含めると200名近い）が周産期の精神保健について学び合いました。

今回は2年越しの開催で、COVID-19 感染拡大予防のために直前で開催中止となった第５回大会会長隅清彰先生（石井記念病院愛染園附属愛染橋病院）とその当時の事務局スタッフ皆さまが準備されたプログラムを引き継いでの第6回大会でした。そして何より、この開催には第6回大会会長遠藤誠之先生と事務局スタッフ皆さまのきめ細やかなご準備があって叶ったものでした。プログラムは、次のような流れで進みました。

＜プレコングレス＞

初日の26日（土）は、「周産期のこころのケア　～赤ちゃんとの出会いと別れ～」から始まりました。このプログラムは，日本周産期精神保健研究会の後援と助成金を受けて、周産期こころのケア研修班の心理士が企画・運営し、第6回大会のプレコングレスとして開催させていただきました。ここでは、「周産期のこころのケアの基礎知識」岡田由美子先生（加古川中央市民病院）から臨床経験をもとに、周産期の赤ちゃんとご家族への支援のあり方をわかりやすくご講義頂きました。続く座談会では、橋本洋子先生（山王教育研究所）、管生聖子先生（大阪大学大学院）、岡田由美子先生と司会の白神美智恵先生（大阪大学医学部附属病院）の四人で、「赤ちゃんとの出会いと別れ」をテーマに、先生方の臨床経験をとおして妊娠中期に胎児と別れる体験をされるご家族のその心の体験やケアについてのお話しを伺いました。心にしみ入る臨床対談で大変好評でした。

参加者は159名で医師、助産師、看護師、心理師（士）、保健師、保育士、助産学生など多職種に及び、参加動機も［周産期のこころのケアを学びたいから］と主体的にご参加頂いていました。アンケートからは「知識からの思い込みだけではなく、それを目の前の人がどう体験されているのか、いいも悪いもなく自分自身がフラットな状態で耳を傾け、関わることが大切だとわかりました」とのお声も頂きました。

＜ワールドカフェ＞

午後は、遠藤誠之先生の会長講演で始まり、遠藤先生のお人柄がにじみ出るような会長講演でほっこりした気持ちになって、続くワールドカフェに参加します。ここでは、林信彦先生（医師）、米井歩先生（認定遺伝カウンセラー）、管生聖子先生（臨床心理士）のミニレクチャーを踏まえて「中絶ケースの妊婦・家族への対応」や「スタッフ自身のグリーフケア」についてワールドカフェ形式でグループ討議し、支援者としてのあり方を考えるこころも頭も揉みほぐされるような体験となりました。

＜大会プログラム＞

27日（日）には、教育講演「早産児の発達障害と療育へのアプローチ」（大阪大学大学院 谷池雅子先生）、一般演題の発表、特別講演「地域の中で，こどもたちと家族を支える」（認定NPO法人こどもの里　荘保共子先生）、シンポジウム「母と子と家族を支える専門職の役割」と続き、大きな流れの中で周産期の親子を護り支えるあり方を再考する機会をいただきました。近畿では、今なお続くCOVID-19変異株の感染対策で，周産期の臨床現場においても生命を護るための面会制限を余儀なくされています。その状況下ではありましたが、Webという新しいシステムで遠隔地からのご関心も寄せていただき、生命に向き合いいのちを育む周産期の精神保健について、2年越しのやさしくも熱いメッセージをご講演からもシンポジウムからも発信されて心動かす2日目でした。

周産期医療は母と子の生命と身体を護る大切な現場ではありますが、生と死、出会いと別れを含みながら親子が家族になる交流が始まる場所でもあります。ここに、こころも護る視点と対応が混ざり合って周産期の親子を多職種で支えていくことの大切さを再確認させていただいた会でした。

附記：ご後援をいただきました日本周産期精神保健研究会にお礼申し上げます。

大阪母子医療センター　川野由子
近畿周産期精神保健研究会　幹事（周産期こころのケア研修班）

第10回・11回 高知周産期こころの研究会

日本周産期精神保健研究会共催
日母おぎゃー献金基金助成事業

この度、webではありましたが高知発にて「出生前診断と選択的中絶のケア」について講演会を開催させて頂きました。

出生前診断と選択的中絶、切っては切れない関係ですがタブー視されあまりおもてだって語られる事は少なかったのではないかと思います。しかし、現場の妊婦さんやご家族、携わる医療者たちは常に感じ、考えてきたことだと思います。2021年4月に、宮城こども病院の室月淳先生が、「出生前診断と選択的中絶のケア」という本を出されました。これを機にお話を頂けないかとお願いしたところ、快く引き受けて下さいました。

両日ともに、いままで室月先生が温めてこられたこのテーマについての想いを存分に感じることが出来る素晴らしい講演を拝聴することが出来ました。高知の地で開催は出来なかったものの、webでの利点を生かして全国から120名以上の参加を頂きました。

いずれの会も高知医療センターHPから視聴が可能です。是非ご覧下さい。

【令和4年1月23日】
第10回高知周産期こころの研究会
講師　東北大学大学院医学系研究科先進成育医学講座
胎児医学分野教授　室月淳　先生
「出生前診断の告知から意思決定までのケア
～あえてマニュアル化しよう～」

出生前診断という特殊な環境下で妊婦とその家族によりよい意思決定が出来るために考える際に必要と思われる講演のポイント
・大事な点をマニュアルとして提示する（下記）
・告知（悪い知らせを伝える）
・理解の確認をする作業の大切さ
・女性としての思いの評価
・倫理的な問題点と意思決定支援

■出生前診断の告知から意思決定までのケアマニュアル
1．話すことが無ければなにも話さなくていい。だまって傾聴する（一番大切なポイント！）
2．沈黙をおそれない。気にしない。待ってあげよう
3．胎児異常が見つかったら、なるべく早くふたりに、わかりやすく率直に伝える
4．「告知」のなかに児についてのポジティブなメッセージをこめるようにする
5．告知内容を正確に理解できているのかの確認作業は重要
6．ショックは一時的なもので、悪い知らせにうちかつための重篤だが自然な反応
7．「話す」こと自体に「苦しみの軽減」がある
8．女性の思いを理解し受けいれる
9．「あいての最後のことば」を繰り返して次をうながす
10．怒る女性にたいしては、患者の意識をその怒りの実体にむけ怒りを和らげる
11．妊娠中絶は当事者の自己決定であり、それはどのような場合でも認めていく

https://www2.khsc.or.jp/shinryouka-bumon/center/boshiiryoucenter/event/shultushoumaesinndannnokokutikaraisikeltutemadenokea/
上記講演は当院HP（上記URL）からアーカイブ視聴出来ます。

【令和4年3月13日】
第11回高知周産期こころの研究会
講師　東北大学大学院医学系研究科先進成育医学講座
胎児医学分野教授　室月淳　先生
「人工死産のケアからその後のフォロー」

■人工死産のケアからその後のフォローに必要な心得
1，2は前回と同様
1．話すことが無ければなにも話さなくていい。だまって傾聴する
2．沈黙をおそれない。気にしない。待ってあげよう
3．適正な分娩の取り扱いが命のグリーフケアに大きな意味を持つ
4．誘発前の「責任を持ってサポートしますから、安心して産んでください」や、死産後の「がんばりましたね」
5．赤ちゃんと会って実際に抱っこすることはとても重要である
6．女性とパートナー、そして赤ちゃんに対しては尊厳の念をもって対応する
7．胎児死亡による死産と選択的中絶のケアには共通点が多いが、後者には特に特別なな心遣いやケアが必要となる
8．死産の児を社会的にも認め、記録と記憶にとどめるようにする
9．悲嘆には一定のプロセスがあり、それを理解しておくことは一定の意味がある
10．つぎの妊娠はそれぞれのカップルにとって自然なタイミングがあるが、急ぎすぎない
11．医療スタッフも自信のケアを必要とする（スタッフケア）

■まとめ
・出生前診断と選択的中絶や死産は当事者にとっても医療スタッフにとっても葛藤が大きく過酷な経験である
・①自分の気持ちを大切にする、②ほかのひとに語ること、③互いに支え合う3点が重要になる
・時にはまわりに助けを求めることも必要
・バーンアウトもけっして終着点ではなく、人生の折り返し点である可能性

https://www2.khsc.or.jp/shinryouka-bumon/center/boshiiryoucenter/event/jinkousizannokeakarakouennkaidouga/

第2回講演会も、高知医療センターHPから動画視聴が可能です。

主催　高知医療センター総合周産期母子医療センター
産科　永井立平

研究会・地方セミナー　開催記録

研究会

回	開催年月日	テーマ	会長	開催地
4	2021年10月30日（土）	子（個）をはぐくむ多様な家族への支援	山中美智子 聖路加国際病院女性総合診療部	東京
3	2018年1月27日（土） ～28日（日）	病院と地域で家族の心を支える ―私たちにできることは？	永田雅子 名古屋大学心の発達支援研究実践センター	名古屋
2	2015年11月14日（土） ～15日（日）	親子の物語が続くとき、私たちにできることは？ －周産期から在宅医療までのかかわり－	側島久典 埼玉医科大学総合医療センター新生児科	さいたま
1	2013年11月2日(土) ～3日(日)	親子の物語が始まるとき、私たちにできることは？	窪田昭男 和歌山県立医科大学第2外科	大阪

地方セミナー

回	開催年月日	テーマ	世話人	開催地
12	2020年3月8日（日） COVID-19流行のため中止	家族と支援者におけるパートナーシップ －家族が家族になるために－	山田恭聖 愛知医科大学病院周産期母子医療センター	名古屋
11	2019年10月6日（日）	周産期における多職種での家族支援	久保実 石川県立総合看護専門学校	金沢
10	2017年9月9日（土）	妊婦と家族のこころに寄り添う ～妊婦さんやご家族が様々な困難に直面した時、 私たち医療スタッフには何ができるのか？～	永井立平 高知医療センター産科	高知
9	2016年10月29日（土）	多くの目と手と心で繋ぐ、小さないのちの物語	高橋雄一郎 長良医療センター産科 寺澤大佑 岐阜県総合医療センター新生児内科	岐阜
8	中止			
7	2014年10月18日（土）	ふくしまの親子とのふれあいを通じて	氏家二郎 国立病院機構福島病院	福島
6	2014年4月20日（日）	出生前診断	渡部晋一 倉敷中央病院 総合周産期母子医療センター	倉敷
5	2013年3月16日（土）	NICU退院支援・ 在宅移行支援体制に、周産期精神保健の視点を	渡辺とよ子 都立墨東病院周産期センター	東京
4	2012年10月20日（土）	精神保健からみた出生前診断	佐藤和夫 国立病院機構九州医療センター 岩山真理子 九州大学病院 総合周産期母子医療センター	福岡
3	2012年2月25日（土）	事例検討　東北地方における妊産婦のうつと 虐待の現状／震災について	佐藤秀平 青森県立中央病院総合周産期母子医療センター	青森
2	2011年5月21日（土）	事例検討　解離性障害の母の出産と新生児の ケア、育児指導の問題点について	久保実 石川県立中央病院・いしかわ総合母子医療センター	金沢
1	2011年2月19日（土）	事例検討　23週の赤ちゃんと母への支援	丹羽早智子 名古屋第一赤十字病院小児科	名古屋

（＊所属はいずれも当時のもの）

事務局からのお知らせ

1．年会費納入のお願い

令和4年度の会費納入のための振り込み用紙を同封させていただきました。大変お手数ですが、お振り込みくださいますようお願いいたします。前年度まで未納がある方にはあわせてご案内いたしました。3年未納で退会となりますのでご注意ください。なお事務合理化のため、「振込金受領書」を会費領収書に代えさせていただきますのでご了承ください。

＊令和4年度会費　　2,000円

【振込先】郵便振替口座：口座番号00800-7-206686
口座名称：周産期精神保健研究会

（郵便局以外の金融機関からのお振込の場合）
銀行名：ゆうちょ銀行
店名：〇八九店（ゼロハチキュウ店）
預金種目：当座　　口座番号：0206686
口座名称：周産期精神保健研究会

2．会員番号について

会員番号を発行いたしました。会員番号はニュースレターをお送りした封筒宛名の右下４桁の数字です。

3．会員情報について

地方セミナー・総会等のご案内をメールで配信しています。ご登録いただいている会員情報に変更がある場合は、事務局までご一報ください。

【メール】pmhjimukyoku@gmail.com
【HP】http://www.shusanki-seishinhoken.com/お問合わせ/